

# がん患者と家族の不安や困りごとを解消 医師が始めた、医療ではカバーしきれないサービス

本誌3月号でレポートした、社会起業大学の「ソーシャルビジネスグランプリ2013冬」でグランプリに輝いた、医師の杉山絢子じゅんこさんにお話を聞いた。

グランプリを受賞した事業計画は「がん」になっても、安心して、自分らしい人生を過ごせる社会へ。「がんコンシェルジュ」を中心としたサポートネットワーク「CANnet」を設立し、がん患者とその家族の不安を和らげ、自分らしく生きがいを持って生活できる社会を目指すというもの。

## 患者、家族、医師の実体験から

杉山さんはグランプリ発表の冒頭で、「皆さん、がんで余命1年と宣告されたらどうしますか？」と会場に問いかけた。もちろんショックを受けるだろうし、何もやる気がしないほど落ち込むかもしれない。逆に、やりたいことをできる限りやろうと自分を励ますかもしれない。しかし、冷静に考えたとき、治療のことは

医師と相談するしかないとしても、仕事や家庭のことはどうすればいいのか見当がつかない。

杉山さんのお父様はがんで55歳で亡くなった。進行は早かったが、会社をたたみ、相続を含め着々と身辺整理をし、そして家族にちゃんと「ありがとう」と言うてから逝った。本人がそれだけしっかりしていても、看取る前の1週間と、その後の1週間、家族はほとんど寝られないほど忙しかったという。実はお母様も現

在がんで治療中だ。がん患者の家族としての体験。また、杉山さん本人も潰瘍性大腸炎という持病があり、患者の苦しみもわかる。そして腫瘍内科医として、がんに関わってきた経験。それらが起業の原点であり、経営資源となっている。

## 「してあげる」ではないサービス

がんコンシェルジュは、医療、福祉、介護、法律、金融、葬儀など全般的知識を持ち、相談者に最適な情報や専門家を

紹介する。専門家会員は、医師、看護師、ソーシャルワーカー、弁護士、ファイナンシャルプランナー、心理カウンセラーなどが登録し、がん患者や家族の不安や困りごと解消のために備える。相談した患者や家族も会員登録し、同じ悩みや経験を持つ者として助言することもある。

杉山さんはCANnetを「善意でしてあげる」活動にはしたくないという。本心に役立つサービスを提供し、相談者の心理的負担にならない程度の対価はちゃんといただく。

患者や家族だけでなく、専門家たちのネットワークづくりにも大きく役立つ。志や想いがあっても組織の中だけでは実現できないことも多い。しかし、CANnetに参加することで可能性が広がり、スキルや経験をよりいっそう社会に活かすことができるのだ。

協力や支援を申し出てくれた人は50人を超え、この6月に一般社団法人を設立した。グランプリ副賞の生涯学習開発財団からの起業助成金は、設立や商標登録の費用として助かったと感謝の言葉をいただいた。まずは3か月、北海道で試運転のうえ各地に展開を予定している。

■CANnet ご支援・お問合せは  
Webサイト：<http://can-net.jp>  
Mail：[info@can-net.jp](mailto:info@can-net.jp)  
TEL：050-3786-7377



## シリーズ 社会起業家

一般社団法人 CANnet 代表理事

# 杉山絢子氏に聴く